

農業 MOT 研究会
令和 8 年度ペースト施肥技術に関する実施課題（委託研究/委託実証）募集要領

(趣 旨)

ペースト施肥は、水稻栽培で広く使われ環境への影響が懸念されているプラスチックを使用した被覆肥料の代替技術の一つとして注目されています。

また、天候に左右されない計画的な施肥作業、タンク大型規格利用による労働負荷の低減や廃プラの低減などに寄与し、現代の農業を取り巻く様々な課題を解決し得る技術として期待されます。

そこで各地域の水稻栽培におけるペースト施肥技術を確立することを目的として、全国の農業関係試験研究機関、普及指導機関等を対象に、委託研究・委託実証の実施課題を募集します。

1 . 募集内容

(1) 対象機関

- ・都道府県農業関係試験研究機関、地方独立行政法人 等
- ・都道府県農業改良普及指導センター普及指導関係機関 等
- ・大学、国立研究開発法人 等

(2) 募集課題

各地域の水稻栽培におけるペースト施肥技術の確立に必要な知見を得るための課題。

※ 本事業は、実施課題の成果を「都道府県等が定めている水稻栽培の各種指針」に反映させることを目指しています。

(委託研究課題例)

- ・○○県の主要水稻品種栽培に適したペースト施肥技術の確立（施肥量、上段と下段の施肥割合、栽植密度、土づくり、収量及び品質、生産費、他）
- ・ペースト施肥栽培の運用が土壤へ及ぼす影響の解明とその対策（可給態窒素、可給態硫黄、他）
- ・ペースト施肥栽培における水稻の根系発達と養分吸収特性の解明
- ・ペースト肥料への農薬やバイオスティミュラント混入による栽培技術の効率化

(委託実証課題例)

- ・ペースト施肥技術普及のための展示圃場の設置
- ・実証経営体でのペースト技術導入の経営評価

(3) 実施期間、経費等

令和 8 年 4 月～令和 9 年 3 月末日。「経費」は申請書記入要領（4 頁）をご覧ください。

※ 複数年の計画の場合も、単年度毎の募集といたします。

(4) 申請書の様式

別紙（3 頁）参照

2. 募集期間

令和7年7月1日(火)から令和7年10月15日(水)17時まで

※ 期限に間に合わない場合は、問合せ先まで御連絡下さい。

3. 課題の選定等

応募課題は、運営委員会の審査により選定し、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）理事長が決定します。

4. 審査のポイント

- ・趣旨、募集内容に適合したものであること
- ・各地域における水稻栽培でのペースト施肥技術の確立に資する内容であること
- ・論文化、都道府県の栽培指針への記載、普及促進を目指すものであること。

5. 審査結果

審査結果は、JATAFF 理事長から提案機関に通知するとともに、委託契約等について依頼します。

6. 実施機関

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）

7. その他

応募書類は、当事業への応募以外の他事業等への流用は禁止します。

委託研究及び委託実証の成績は、令和8年度末に開催予定の成績検討会で報告していただきます。（対面開催の場合の旅費は原則として当協会が負担しますが、別途調整させていただきます。）

(農業MOT研究会)

生産現場で経営と技術の視点でものを考え、改善策を生み出して普及させることを目的として、セミナー、ワークショップ開催等を行っている。令和5年度に「ペースト施肥技術プロジェクト」を開始し、令和6年度から本格的に全国の農業関係試験研究機関、普及指導機関等を対象に、委託研究・委託実証を実施。

(問合せ先)

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）

農業 MOT 研究会ペースト施肥技術プロジェクト事務局 植木

(03) 3509-1161

E-mail: ueki@jataff.or.jp

(別 紙)

令和8年度ペースト施肥技術に関する委託研究、委託実証 申請書

(委託研究・委託実証) (新規・継続) 選択してください。 (※どちらかを○で囲む)

機 関 代表者	名 称 : 役職・氏名 :
所在地	住所 : 〒 連絡先: Tel Fax
業務担当者	氏名 : 所属 : 連絡先: Tel Fax E-mail
経理担当者	氏名 : 所属 : 連絡先: Tel Fax E-mail
課題名	
目的	
水田土壤の分類	(※ 土壤分析の有無を、試験項目の欄に記載。)
栽培品種	
前作の施肥	粒状肥料、二段ペースト、その他 ()
試験項目及び内容	※ 別添「令和8年度ペースト施肥技術に関する委託研究、委託実証成績書作成要領」(6-8頁) を参考とする。 ※ 委託研究は、結果の再現性を確保するために、原則として対照区を設け反復(年次を含む)試験を実施すること。成果は論文として公表することが望ましい。
実施期間	令和8年4月～令和9年3月末日 (計画:令和 年度～令和 年度) ※ 実施課題の継続は、原則3年までとする。
経 費	※ 次頁 記入要領 参照
田植機の貸与等	※ 試験に供する田植機・装置等の種類(型式)等を記入する。

申請書 記入要領

- ・「経費」

ア) 所要経費の積算基礎等を記入する(必要に応じて別紙を添付する)。

所要経費の項目は、資材費(肥料代、農薬代、種苗代、分析用資材代等の内訳を記載)、光熱水費、賃金(調査・取りまとめ等)、旅費、圃場借上料等。備品購入費は原則として含まない。

イ) 1課題の経費は、年間、委託研究は 30 万円～ 40 万円程度、委託実証(現地実証展示圃)は 10 万円程度を目安とする。

ウ) 現地検討会を開催する場合は、会場借料、資料代、会議費等の実費を別途計上することが可能。

- ・その他

申請書は、A4 で作成し、e-Mail で事務局に送付すること。

原則として、2頁以内とするが、必要な場合は3頁も可。

(申請書は、農業 MOT ペースト施肥プロジェクト web ページ (<https://www.jataff.or.jp/index.html>)からダウンロードできます。)

(参考)

【令和6年度実施課題】

実施機関	課題名
栃木県農業総合研究センター	ペースト二段施肥栽培による環境負荷軽減効果の実証
石川県農林総合研究センター	石川県の水稻栽培におけるペースト二段施肥技術に関する研究
山口県農林総合技術センター	山口県の主要水稻品種「ヒノヒカリ」におけるペースト二段施肥による基肥一発施肥技術の確立

【令和7年度 実施課題】

実施機関	課題
青森県西北地域県民局	青森県のブランド米「青天の霹靂」の特別栽培における有機態窒素100%型ペースト肥料を活用したペースト二段施肥技術の実証
山形県農業総合研究センター	山形県の水稻品種「つや姫」に適したペースト二段施肥技術の開発
栃木県農業総合研究センター	ペースト二段施肥栽培による環境負荷軽減効果の実証
広島県 東部農業技術指導所	ペースト二段施肥における「にじのきらめき」に適する上下段の窒素割合の解明
山口県農林総合技術センター	山口県の主要水稻品種「ヒノヒカリ」におけるペースト二段施肥による基肥一発施肥技術の確立
愛媛県農林水産研究所	愛媛県の水稻栽培におけるペースト二段施肥による基肥一発施肥技術の確立

(別添)

**農業 MOT 研究会
令和 8 年度ペースト施肥技術に関する実施課題（委託研究/委託実証）
成績書作成要領**

1. 成績書

項目及び様式：別添参考様式のとおり。
用紙：A4 版縦、1 課題当たり 6 枚程度とします。
体裁：余白は上下・左右 26 mm、フォントは MS 明朝 10 ポイント、
行数は 40 行程度、枠線等の体裁は、別紙様式を参考として下さい。

2. 成績概要

A4 2 枚で作成する。

(項目)

1. 課題名
2. 試験（実証）担当機関・担当者名
3. 実施期間
4. 試験場所
5. 目的
6. 成果の要約
7. 主な成果の概要及び考察（問題点を含む）
8. 次年度の計画
9. 主なデータ

3. 成績書及び成績概要の提出

(1) 提出期限

令和 9 年 1 月 20 日

(2) 送付上の注意

送付頂いた成績書は、そのまま検討会資料（白黒）とします。原稿は Word ファイルで作成し、メールで提出をお願いします。

(3) 原稿送付先

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会
農業 MOT 研究会ペースト施肥技術プロジェクト事務局 植木
E-mail: ueki@jataff.or.jp

別添参考様式

令和8年度 委託研究（実証）成績

担当機関名 部署名	
実施期間	(注1)
課題名	
目的	
担当者名	
圃場の所在地 農家(組織)名	※委託研究の場合は不要。
農家(組織)の 経営概要	※委託研究の場合は不要。
1. 試験場所 (水田土壤の種類、前作の施肥) 2. 栽培品種 3. 試験（実証）方法 (注2) 4. 試験（実証）結果 (主要成果の具体的データを含む) (注3) 5. 経営評価 (注4) 6. 考察 (成果の普及を含む問題点と次年度の計画を含む) (注5) 7. 次年度の計画 (注6) 8. 参考写真 (注7)	

(注1) 実施期間：※開始年度～終了予定年度を記載。新規又は継続が分かるよう記載する。

(注2) 試験（実証）方法

※ 継続実施課題の場合、前年度までの成果と残された課題の要約を記述し、これらを踏まえて、本年度において重点的に取り組んだ或いは変更した試験項目の概要を冒頭に記述する。

(例：前年度までの・・・を踏まえ、本年度は・・・)

試験条件

ア. 圃場条件 (土壤統名、排水の良否等を記す)

イ. 栽培の概要

次の項目を標準とし、適宜項目を削除または追加して記載する。

・品種名

- ・耕起（方法、時期）
 - ・均平（方法、時期）
 - ・代掻き（方法、時期）
 - ・播種（播種様式、播種前処理、播種期、播種量）
 - ・育苗（播種期、播種量、育苗期間、葉齢）
 - ・移植（移植期、栽植密度、1株苗数）
 - ・施肥（基肥・追肥別3要素施用量、施用時期、肥料の種類、施肥方法）
 - ・水管理（灌水及び落水の時期、湛水深）
 - ・除草（除草機；種類、除草時期）
(除草剤；名称、施用時期、施用量、施用方法)
 - 病害虫防除（農薬の名称、施用時期、施用量、施用方法）
 - 鳥獣害防除（方法、時期）
 - ・収穫・調製（方法、時期）
- ウ 供試機械名（使用した田植機）

(注3) 試験（実証）結果（主要成果の具体的データを含む）

次の項目を標準とし、試験の内容に応じて項目を削除または追加する。

- ・雑草（発生時期、主要草種、草量）
- ・病害虫（発生時期、主な種類、被害状況）
- ・生育・品質・収量
- ・労働時間・生産費（10a当たり作業時間、生産費）
- ・使用した農業機械の作業精度、作業能率等の評価や改善点等
(農家からの聞き取り結果を含む。)

※ 成績の取りまとめは、対照区（コントロール）、慣行区等と比較して有意差を示す等、外部に説明できる内容とする。

(注4) 経営評価（主に実証課題）

収量・品質の向上効果、当該技術を導入した経営的効果（慣行技術との比較、単位面積当たり所得・生産費、作業時間等の比較、経営収支比較等）、総合的評価及び問題点を具体的に記述する。

(注5) 考察（成果の普及を含む問題点と次年度の計画を含む）

都道府県の稻作に関する各種指針への反映スケジュール等を記載する。

生育、収量、品質、作業技術、経営評価、供試機の適応性等について、前年度までの成績も含めて、良い点、悪い点及び問題点、今後の課題や展望を記述する。

(注6) 次年度の計画

次年度の重点試験項目、設計を変更する場合は変更の目的・変更試験項目を記述する。

(注7) 参考写真

圃場における機械作業、作物の生育など試験又は実証内容を示す参考写真をA4用紙1～2枚に添付する。